

平成20年4月30日
サンフランシスコ産業情報センター
駐在員 杉本安信

Airport Expo 08 にみる空港支援ビジネスの動向

航空機の利用が世界的にも年々増加していますが、航空機の安全で円滑な運航を確保する空港内での航空機、貨物、乗客の支援業務の役割は、一層重要性を増してきていると言えます。

そうした中で、このほど空港内でのそれら支援業務を行う企業・団体等が出展・参加する「Airport Expo 08」が4月8日から3日間にわたって米国ラスベガスにおいて開催され、愛知県サンフランシスコ産業情報センターにおいても初日と2日目の2日間、その動向を調査しましたのでご紹介します。

<Airport Expo とは>

米国国内では、航空産業に関する展示会が毎年多数開催されていますが、今回の Airport Expo は、地上での航空機運行支援業務に関する技術・サービスに特化した展示会として企画され、マンダレイベイホテル内の展示ホールと屋外駐車場を会場として開催されました。

主催者である The Mack Brooks Group によると、こうした地上支援業務に特化した展示会は初めての試みとのことであり、今回、11カ国、130にのぼる出展者が参加し、地上支援設備と空港設備に関する200以上の最新技術・サービスが展示されているとのことでした。

会場内では、航空機を牽引する専用車両（タグ）や滑走路・誘導路設備、手荷物管理、貨物管理、ゴミ収集・処理など、様々な技術・サービスが展示・紹介され、会場内で出展者と見学者による熱心な商談、情報交換の様子が見受けられました。

<地上支援業務における安全性評価の新たな指針>

主催者の説明では、展示は全体として安全に関するものが多くなっているとのことでしたが、とりわけ同時開催のセミナーにおいて IATA（国際運送協会 / 本部：モントリオール）の職員から発表された「ISAGO」（IATA Safety Audit for Ground Operations）は、地上支援業務での安全性確保に関して大きな変化をもたらすものとして注目されました。「ISAGO」は、IATA がこの3月にまとめた地上業務に関する世界初の安全性評価の制度であり、IATA が契約企業の製品・サービスの安全性を認証することにより、部品・サービスの供給企業が各航空会社との間で個別に検証を行う必要がなくなり、業務効率の向上ならびに運行管理面での安全性の向上につながるものと考えられています。

2006年後半に ISAGO の事業調整グループが組織され、2007年における1年間の会合を経て、この3月に ISAGO の標準マニュアルや訓練プログラムが開発されました。2008年3月までに13にのぼる企業が試行参加しているとのことであり、5月以降は標準評価基準の本格実施を開始することが予定されています。5月には ISAGO の内容についての第1回目のセミナーがクアラルンプールにおいて開催されますが、IATA のマイク・オブリエン評価プログラム課長からは、日本の関係者にもぜひ ISAGO への理解を深めてもらい

たいとのコメントがありました。

<関心高まる空港内でのクリーンエネルギー導入>

今回の展示会の中で注目されたもう一つの話題として、空港内でのクリーンエネルギーの導入があげられます。ガソリン価格の高騰を受け、航空産業においても代替燃料への関心が高まってきていますが、講演プログラムの一つに米国エネルギー省における燃料電池の研究開発状況についての紹介が組み入れられ、政府の実証実験に参加している専門家から政府の取り組みについて紹介が行われました。一般道における自動車への燃料電池の搭載は、様々な場所にその供給施設を設ける必要がある一方で、空港のような専用かつ限定的施設における飛行機の牽引車両などへの搭載であれば、燃料電池の導入はより可能性が高く、今後、ガソリンに代わる代替燃料の利用に向けた研究はさらに進むであろうとの見通しが示されました。

また、他の発表者からは、空港内で使われるシャトルバスでのCNG車両の導入が世界各地の空港で増えてきていることや、ジョージブッシュ空港（ヒューストン）においてハイブリッド自動車であるプリウスが利用されていることなど、空港地上業務でのクリーン化が進んでいることが紹介されました。2005年に開港した中部国際空港においても、我が国の空港として初めて燃料電池バスが航空機への旅客送迎バスとして導入されているほか、環境対策に関する取り組みをまとめた「グリーンレポート」が2002年から毎年作成されていますが、今後、空港のクリーン化は、環境対策、経費削減の双方の視点から世界各地で進むと見込まれています。

今回のAirport Expoは、地上での航空機運行支援業務に関する技術・サービスに特化した初めての展示会として企画されましたが、市場拡大が進む航空産業を支えるこの分野の重要性を強く印象付けられるものとなりました。Airport Improvement Magazine社のポール・ボウワーズ編集長は、公式ガイドの記事中、「航空機産業の環境は変わりつつある。このダイナミックな環境変化に空港部門の関係者は向き合っていかなければならない。」と述べています。空港間の競争が激しくなる中、中部国際空港、県営名古屋空港の2つの空港が立地する愛知県にとって重要な役割を果たすこの産業の動向について、今後も注目していきたいと思えます。



セミナーの様子



屋外展示場でのデモンストレーションの様子